

Euglena Group

# 2023年12月期の事業進捗および 今後の事業展望

株式会社ユーグレナ  
東証プライム市場（証券コード：2931）

2024.03.19

- 【留意点】 当社は、2021年8月26日開催の臨時株主総会における承認決議により、決算期（事業年度の末日）を9月末から12月末に変更致しました。その結果、2021年12月期（第17期）は経過期間として2020年10月から2021年12月までの15ヶ月間の決算期となります。
- 【免責事項】 本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。

# 新経営体制への移行

2024年より新経営体制に移行、フィロソフィーとパーパスを追求する姿勢に変化なし

2024年からの新経営体制



若原 智広  
代表執行役員  
Co-CEO兼CFiO

出雲 充  
代表取締役社長

植村 弘子  
代表執行役員  
Co-CEO兼COO

# 1-グレン

いきる、たのしむ、サステナブル。

フィロソフィー（経営哲学）

## Sustainability First

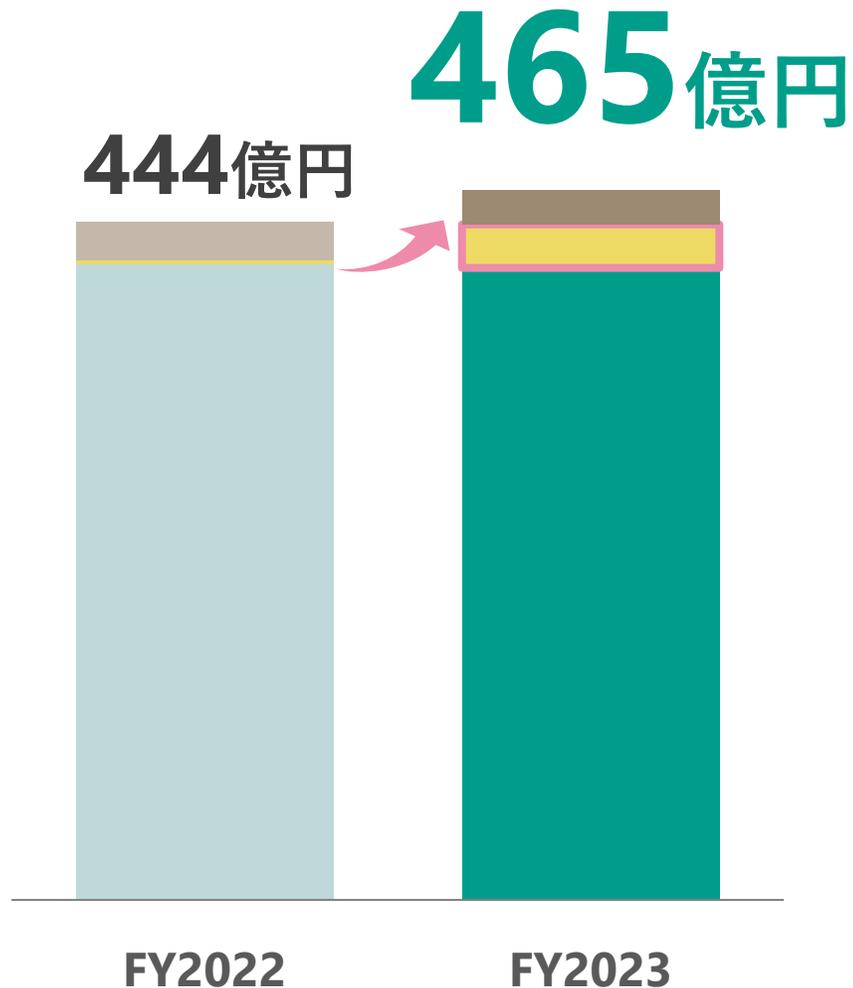
サステナビリティ・ファースト

パーパス（存在意義）

## 人と地球を健康にする

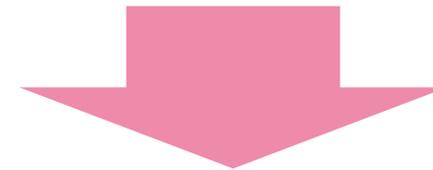
# 2023年度決算サマリーおよび 2024年度業績見通し

# 2023年度業績 - 売上高



## 主な達成事項

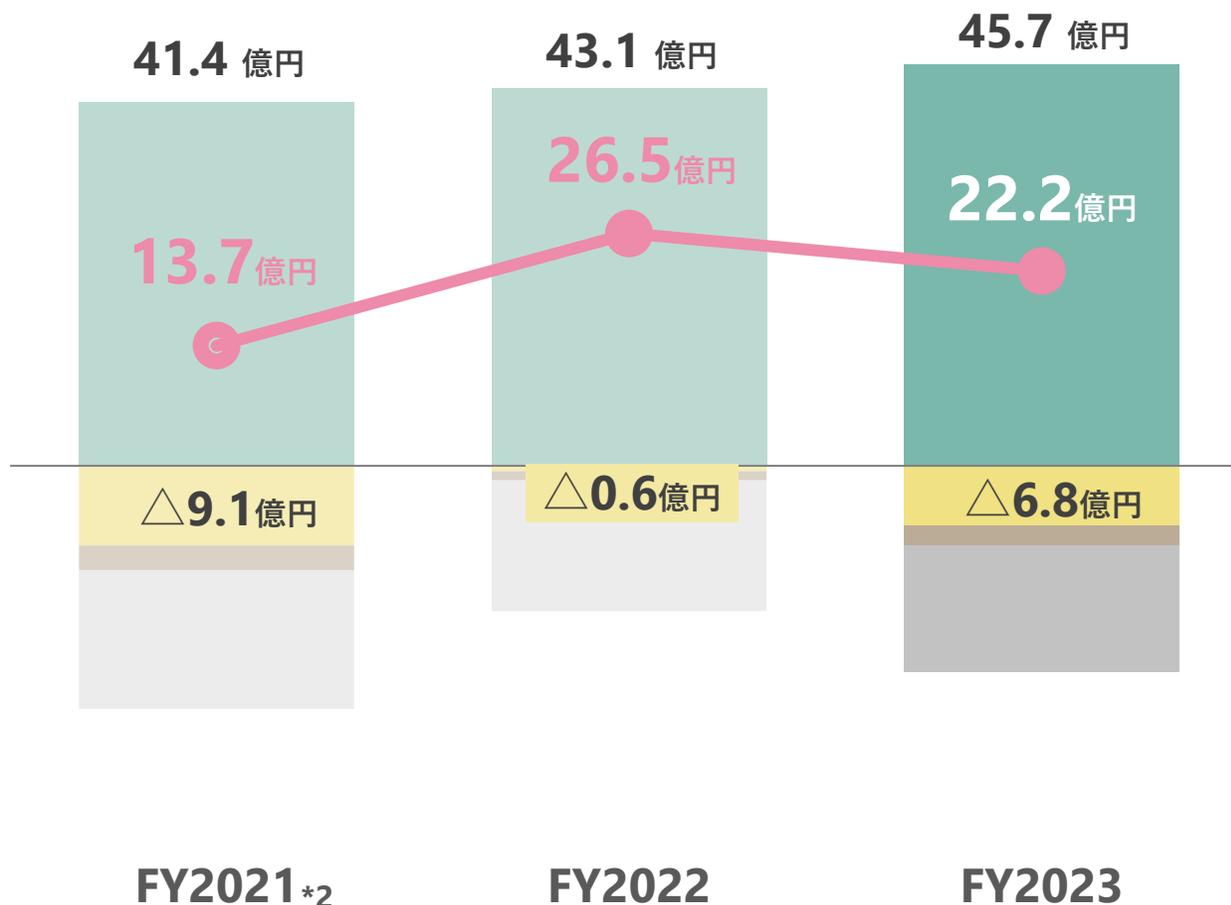
連結売上高は  
過去最高を達成



商業化を見据えた  
大口テスト取引が拡大し  
バイオ燃料事業が大幅増収

# 2023年度業績 - 調整後EBITDA\*1

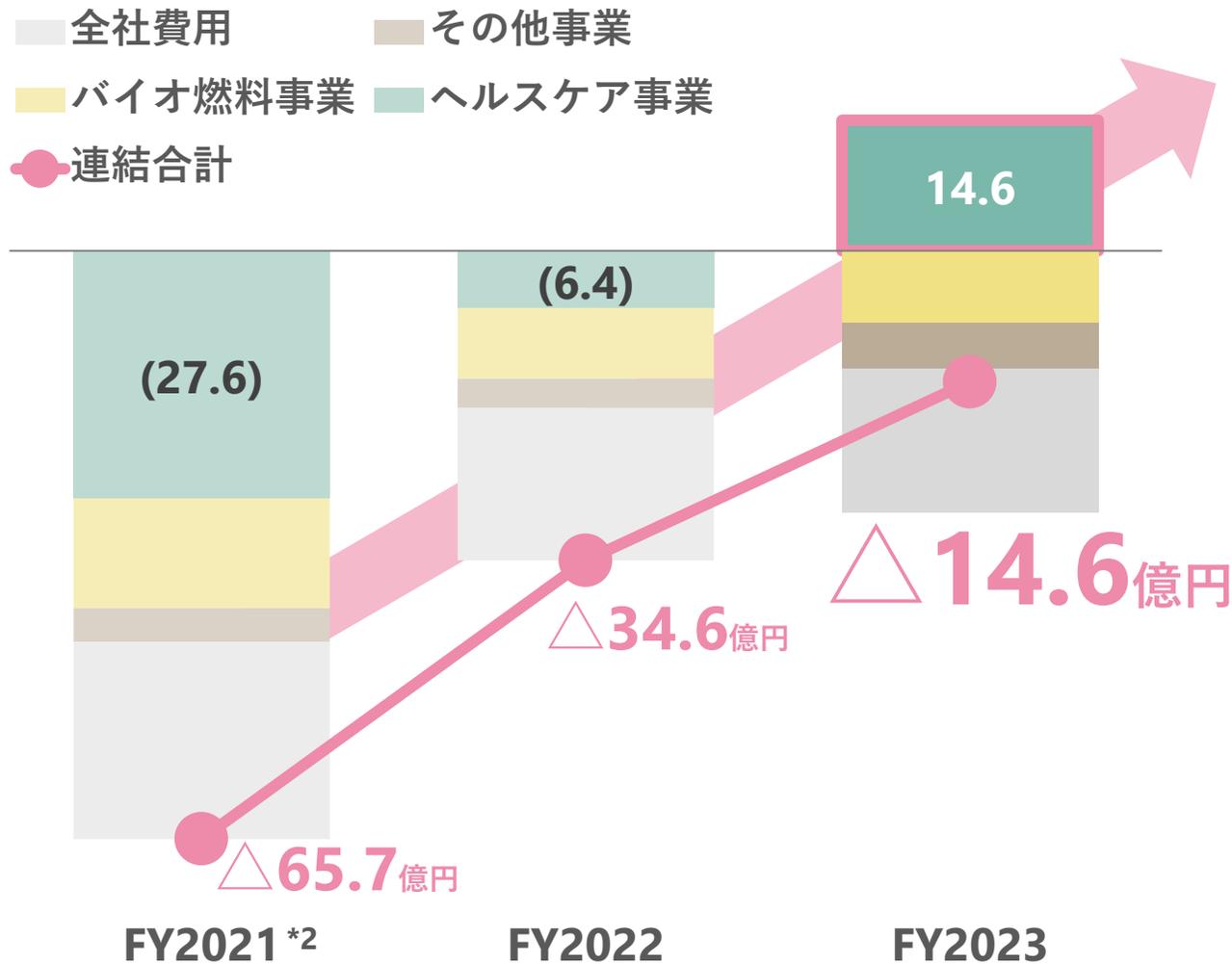
全社費用
  その他事業
  バイオ燃料事業  
 ヘルスケア事業
  連結合計



## 主な達成事項

- **ヘルスケア事業：**  
 広告投資最適化やコスト削減施策が奏功し、黒字が拡大
- **バイオ燃料事業：**  
 助成金収入の減少や一過性の会計処理で、赤字が拡大

# 2023年度業績 - 連結営業損益\*1、セグメント損益



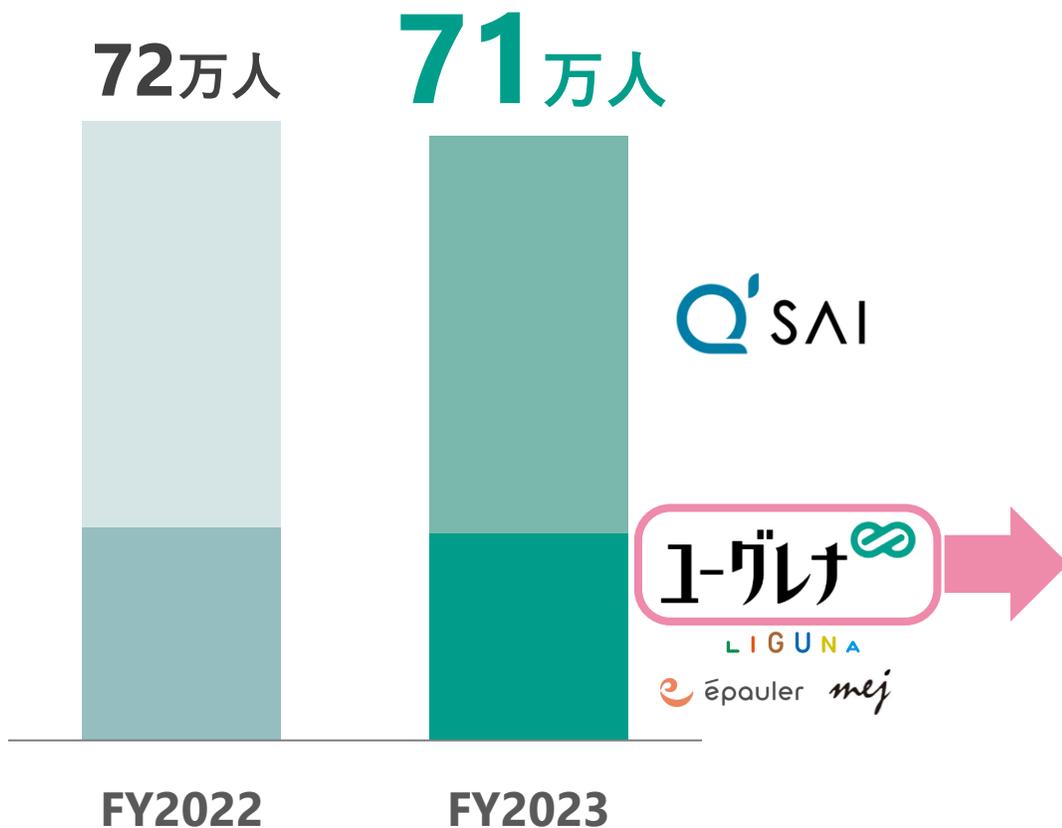
## 主な達成事項

- キューサイM&Aに伴う一過性の会計処理が終了し、赤字幅が縮小
- ヘルスケア事業が黒字転換

# 2023年度振り返り - ヘルスケア事業

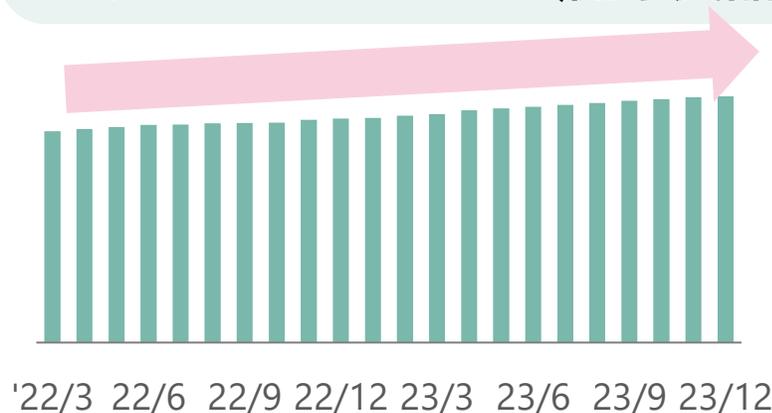
定期顧客数は横ばい、ユーグレナ社の2ブランドが成長トレンドへ

## グループ定期顧客数



1-グレナ

## からだにユーグレナ (健康食品)



- 定期顧客数  
21ヵ月連続増

## CONC (化粧品)



- 2024年4Qは  
3Q比で+70%

# 2023年度振り返り - バイオ燃料事業

供給先は累計93件まで拡大。2024年1月末で実証プラントの稼働を終了、今後は商業化に向けたサプライチェーン構築を推進

## 実証事例

### 企業連携

佐川急便  
運送トラック



陸

### 地域連携

G7広島サミット



陸

海

空



## 商業化フェーズへの移行

製品  
販売

国内



供給パートナーを拡大

SINANEN 平野石油株式会社

MASUDA THE NEW SOGO ENERGY 総合エナジー株式会社

中川物産株式会社 SANWA ENERGY 三和エナジー カメイ

1-グレ

製品  
購入

海外  
パートナー  
企業等

海外



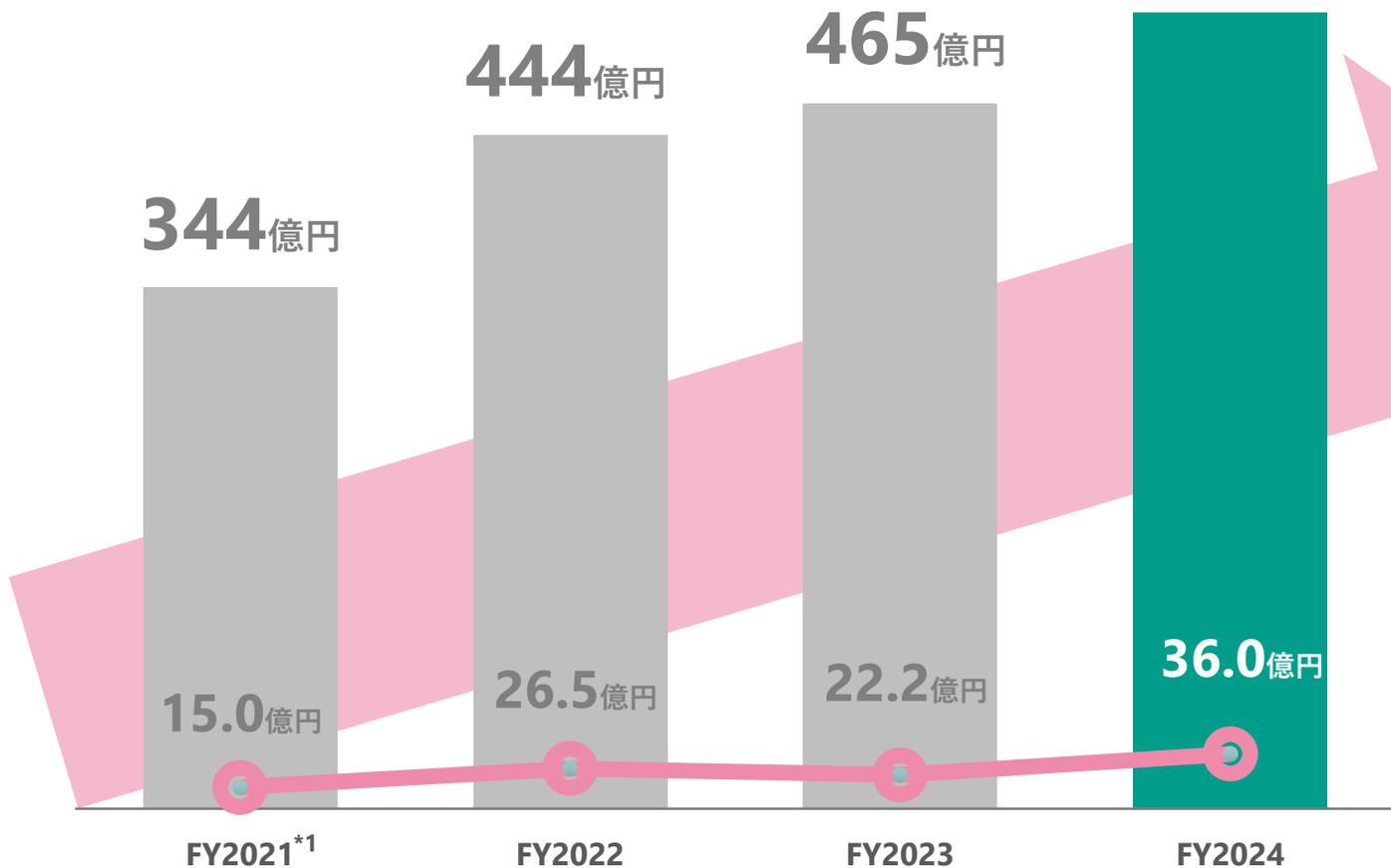
テスト取引を推進

# 2024年度業績見通し - 売上高、調整後EBITDA

■ 売上高  
● 調整後EBITDA

今期売上高予想

525億円



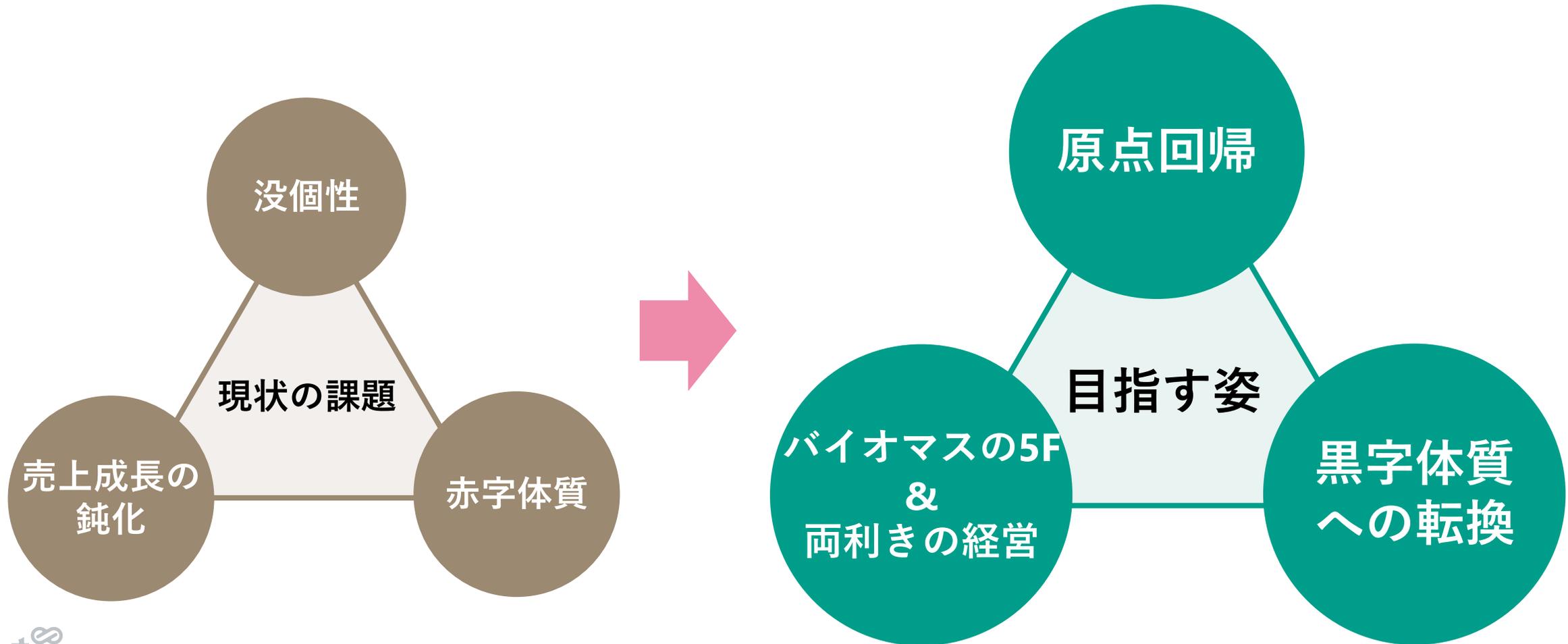
売上高の継続成長と  
収益性の改善

グループ全体で  
サステナブル成長へ

# 中期経営方針（全社）

# 現状の課題と目指す姿

「原点回帰」「バイオマスの5F&両利きの経営」  
「黒字体質への転換」により、サステナブル成長を実現

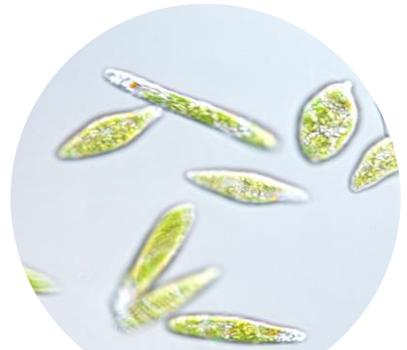


# 1 原点回帰 - 競争力や独自性の原点

成長と挑戦を支えてきた「研究開発力」「ベンチャー精神」を軸に、当社の競争力や独自性を再構築



培養設備  
(2005年当時)



ミドリムシ  
(顕微鏡400倍)

# ユ-グレナ

いきる、たのしむ、サステナブル。

研究開発力  
※特に微細藻類

ベンチャー  
精神



Bangladesh  
 栄養失調問題



東京大学発  
 ベンチャー  
 ～東証1部上場



バイオ燃料  
 実証プラント  
 への投資

# 1 原点回帰 - ユーグレナ社の技術力、微細藻類の培養方法

「独立栄養培養」 × 「従属栄養培養」 = 「光従属栄養培養」 を実現

独立  
栄養培養

培養難易度が高い

屋外培養プール



光従属  
栄養培養

屋外培養タンク



石垣島ユーグレナ  
(食品用)

従属  
栄養培養

培養効率が高い

屋内培養タンク



オーランチオ  
キトリウム

# 1 原点回帰 - 微細藻類のポテンシャル

## 微細藻類ユーグレナ

培養技術の向上が事業拡大に直結、幅広いテーマで研究開発を推進



化粧品原料



ユーグレナ  
エキスEX



ユーグレナ発酵  
オイル

発酵・微生物



みどりうどん



ユーグレナの  
培養土

パラミロン製品



パラレジン



ユーグレナ  
グラシリスEX55

## オーランチオキトリウム

DHA\*1を多く含む食品原料として商業生産体制を構築



食材への活用



- ・深い旨味と程よい塩気
- ・魚介風味
- ・アレルギー28品目非該当
- ・サプリメント、シーズニング

人工ウニ ラーメンのスープ 代替シーフード素材等に活用

バイオ燃料素材の研究



油脂を高効率で生成・蓄積することから、バイオ燃料原料としての研究も実施



## 2 「バイオマスの5F」と「両利きの経営」

「バイオマスの5F」を起点に、深化と探索の「両利きの経営」で事業を展開し、パーパス「人と地球を健康にする」を目指す

### 深化

### バイオマスの5F

### 探索

ヘルスケア事業



yaeyama LIGUNA

épauler mej Q'SAI

Genequest SATICINE MEDICAL  
株式会社サティス製薬

オーガニック成長 ×  
研究開発 × M&A



重量単価  
| 高い

Food  
(食料)

Fiber  
(繊維)

Feed  
(飼料)

Fertilizer  
(肥料)

Fuel  
(燃料)

↓ 低い

バイオ燃料事業  
新規事業

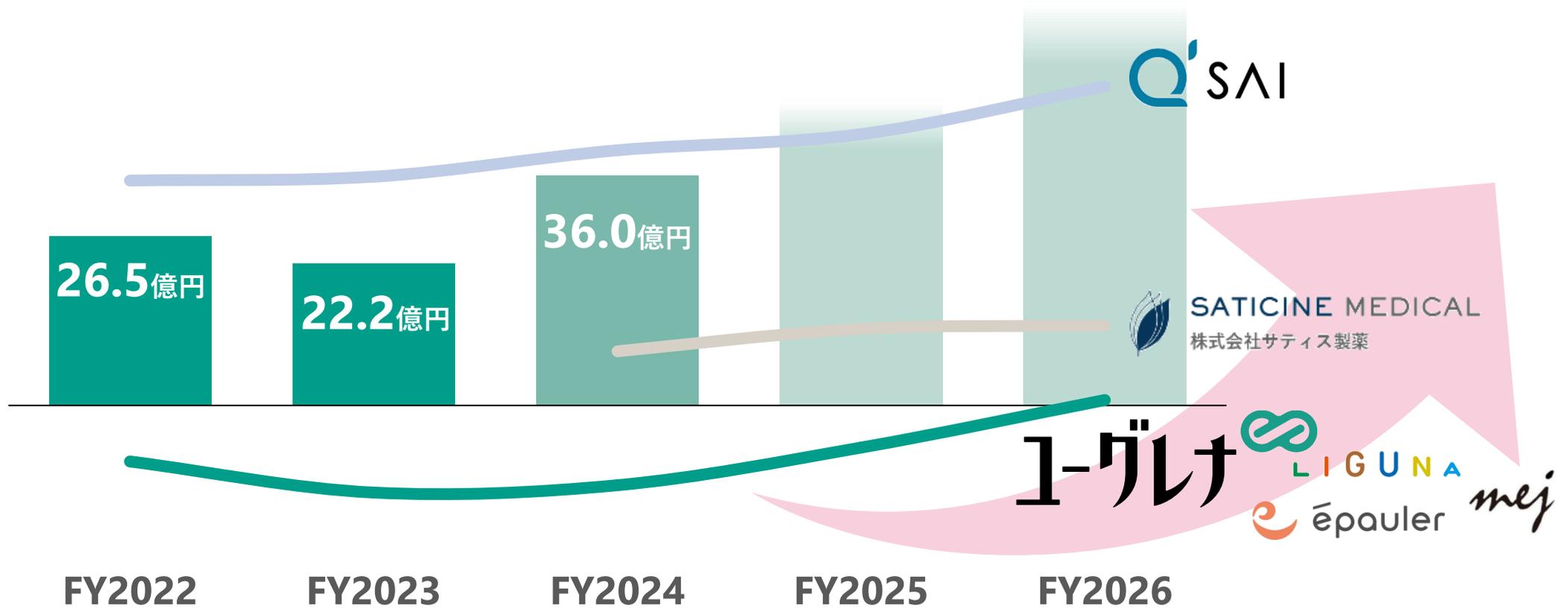


研究開発 ×  
パートナーシップ



### 3 黒字体質への転換 - 調整後EBITDAの成長イメージ

ユーグレナ等\*1の収益構造改善に注力し、  
商業プラント抜きで2026年EBITDA黒字化を目指す



Copyright Euglena Co., Ltd. All rights reserved.

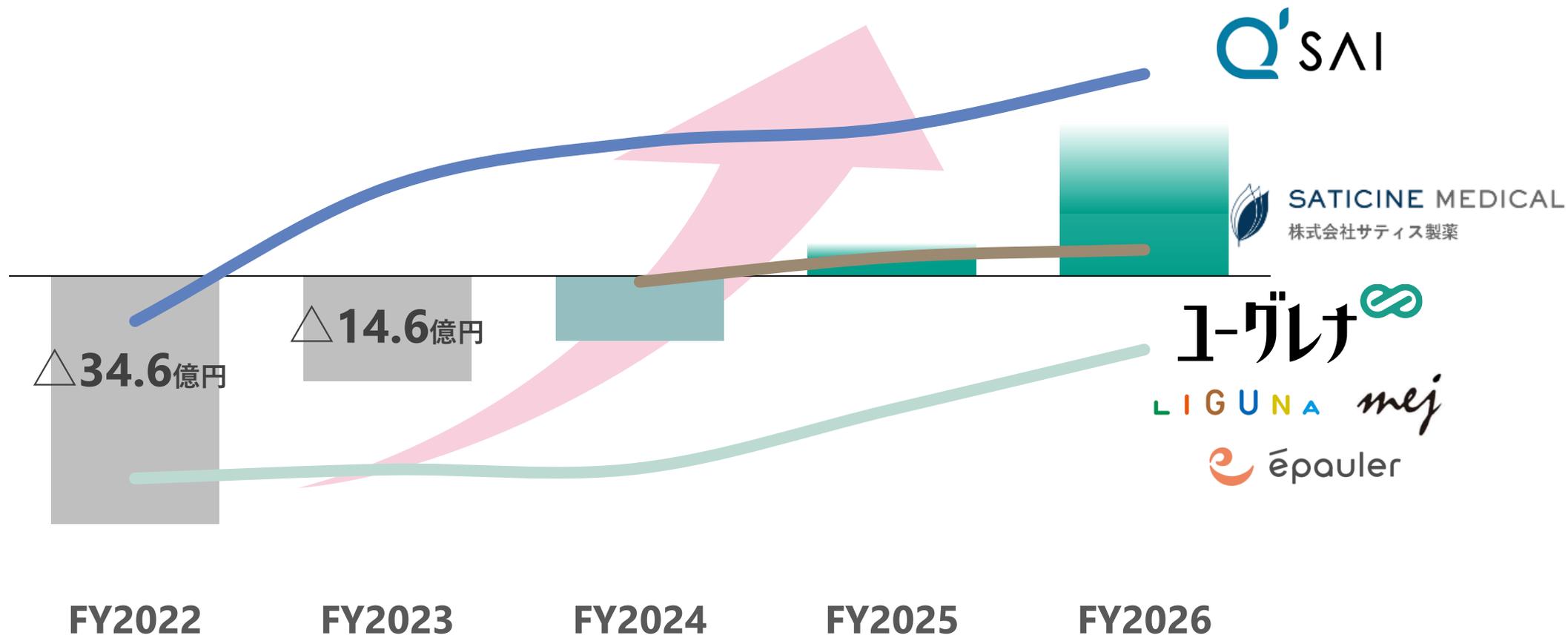


\*1: ユーグレナ等は2023年度末の連結グループPLからキューサイグループPLを控除した金額で、エポラ、MEJ、LIGUNA等を含み、バイオ燃料商業プラント計画の影響は加味していない



### 3 黒字体質への転換 - 連結営業損益の成長イメージ

グループ全体の利益率改善とサティス製薬の連結寄与で  
2025年黒字化を目指す



Copyright Euglena Co., Ltd. All rights reserved.



\*1: ユーグレナ等は2023年度末の連結グループPLからキューサイグループPLを控除した金額で、エポラ、MEJ、LIGUNA等を含み、バイオ燃料商業プラント計画の影響は加味していない  
\*2: キューサイグループとサティス製薬の営業利益はのれん/無形資産償却費等を加味した数値で、サティス製薬の値は今後のれん/無形資産のPPA評価結果により変動する見込み

# 中期経営方針（各事業別）

# ヘルスケア事業 - 中期方針

サステナブルな  
収益成長基盤の構築

収益構造の筋肉質化

成長ブランドと  
ファン顧客の育成

メーカー機能の強化

2026年度目標

売上高

500億円

調整後EBITDA\*<sup>1</sup>マージン

15%

# ヘルスケア事業 - 中期実施事項

サステナブルな  
収益成長

- ブランド育成
- クロスチャネル展開

③ メーカー  
機能の強化

- 化粧品開発と製造機能
- 素材の認知と販売網強化

② 成長ブランドと  
ファン顧客の育成

- 投資の選択と集中
- 利益率改善の徹底

① 収益構造の筋肉質化

# ヘルスケア事業 - サティス製薬グループ<sup>o\*1</sup>

## サティス製薬グループの参画で、化粧品製造機能が大幅拡充



# バイオ燃料事業 - 商業プラント建設・運営プロジェクト



マレーシアPETRONAS社の敷地内に建設予定



実現に向けて3社が全力でコミット

- 製造能力：  
約72.5万KL/年相当\*1
- 進捗状況：  
建設/資材調達の入札プロセスが進行中、  
2024年半ば頃の最終投資決定を目指す
- その他：  
当社シェアや建設スケジュールは、  
最終投資決定時にアップデート予定

# バイオ燃料事業 - バイオ燃料原料用ユーグレナ生産の実用化

## 独立/従属栄養培養の二正面作戦で、 2030年までに大規模・低コスト培養技術の確立を目指す

これまでの主な研究開発



@インド  
ネシア



@三重

2030年に向けて



熱帯バイオマス技術研究所

独立栄養培養での  
研究開発を継続



光従属  
栄養培養



従属  
栄養培養



生産技術研究所

従属栄養培養での  
研究開発を強化



飼料



肥料



資源サーキュラー技術研究所

脱脂藻体の飼料・  
肥料活用の研究

# その他事業 - サステナブルアグリテック、ソーシャルビジネス

## 第3の事業の柱として、飼料・肥料領域の展開を本格化

### サステナブルアグリテック

新商品の開発、M&A、シナジーを軸に  
事業拡大を狙う

#### 飼料領域

ユーグレナ飼料及び  
脱脂藻体の研究



水産・畜産領域で  
商品開発



#### 肥料領域

未利用資源を  
肥料原料など  
に変換



大協肥糧(株)で有機肥料  
の製造・販売



### ソーシャルビジネス

ユーグレナGENKIプログラム10周年  
累計配布数1,730万食突破



研究  
開発

事業  
開発

# 2030年度に向けた成長イメージ

既存事業の成長と新たな売上の柱となるシーズの選択肢を確保

## Sustainability First

売上高  
調整後EBITDA\*1を  
ロケット成長

商業化



バイオ燃料  
事業

ヘルスケア  
事業

その他  
事業

売上高  
100億円

調整後EBITDA\*1マージン10%

新規事業



健康食品



売上高600億円  
調整後EBITDA\*1マージン15%+

化粧品



\*1: 調整後EBITDAは当社独自の財務指標。計算式は、EBITDA(営業利益+のれん償却費及び減価償却費)+助成金収入+株式関連報酬+棚卸資産ステップアップ影響額

